

国語科における「言語活動の充実」に向けて

各教科において、基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成が目標とされている。国語科は、その基盤となる「言葉の力（話す・聞く力、書く力、読む力）」の育成の中核を担う。その手だてとして、記録・要約・説明・論述・討論・鑑賞などといった言語活動がある。

【視点1】「基礎的・基本的な知識および技能を明確にし、確かな習得を図る」とともに、「思考力・判断力・表現力の育成を図る」意図的・計画的な言語活動を位置づけた単元構成と単元の評価の在り方

社会に出た時に最も必要になるのは、分からないことを他の誰かに聞いて理解したり、複数の人間とアイデアを出し合って練り上げていくこと、つまりコミュニケーションの能力である。そこで、社会生活に必要な（「実生活に生きてはたらく」）国語の能力の基礎として、特に、「発信者としての力」と「他者と相互に思考を深めたり、まとめたりしながら解決していく能力」の育成が求められている。

①目的をもった言語活動を設定する

例えば、「推薦文を書くために読む」、「保護者に行事の結果を報告するために書く」など、目的及び相手を明確に定めた言語活動を設定する。これによって、児童生徒の意欲を喚起するとともに、発達段階に応じた「言葉の力」を定着させることができる。

②「交流」の重視

授業の中で自分の意見を持つだけでなく、またそれを言えるだけでなく、他の人の意見を聞き、その意図や中心部分をつかむことで、お互いに考えを深め合ったり、相手の良さを発見して自分の中に生かすことができるとともに、良好な人間関係を築いていくことにもなる。国語科においては、その交流の仕方（意見の述べ方・賛否の表明の仕方など）を基礎・基本として習得させ、教師の援助の下に有効な実体験をさせ、他教科でそれが活用できるように導く。

【視点2】問題解決学習を基盤とし、「課題意識（問題意識）」や「解決への見通し」を持ち、「自ら考え、伝え合う場」を具体的・効果的に設定した学習過程の工夫と1単位時間の評価の在り方

問題解決学習を基盤とした授業を成立させるためには、どのような言語活動を設定するかが重要である。単元を通じた言語活動に取り組む過程の中に細かい言語活動を設定し、一つずつクリアさせていくことによって、児童生徒が自ら学び、課題を解決していくことができる。

①単元を貫く言語活動の設定

児童生徒が「伝えたい」と思えるような目的・状況を言語活動として設定し、同時に学習過程を明確に示す。それによって、児童生徒は学習の見通しをもち、主体的に学習に臨むことができる。

②学習過程の工夫

単元を貫く言語活動を設定した上で、学習過程を組み立てていく。1単位時間の中にも言語活動を設定することになるが、あくまでも育成すべき力を中心に据えたうえで、子どもの思考や活動をイメージしながら構成する。

また、意欲を持って授業に向かわせるために、その単元で児童生徒につけたい力が、どんな時に必要とされ、どのような場面で生きるのか、をイメージさせ、「普段の生活でも使えそう」、「ぜひその力を身につけたい」と思わせるような導入が必要になる。常にそれを意識させながら授業を進めていくことも重要である。そして、まとめの段階において、得た力をこれからの生活や授業で使えるような振り返りも欠かせない。

③自ら考え、伝え合う場の工夫

自分の考えを的確な言葉と方法で他者に伝える力、また他者の意見を理解して自分の中に取り込む力を養うために、集団内での交流活動が有効である。学習班などの小集団交流において、まずは自分の意見を他者に伝えるという経験、そして特に国語科では、様々な考え方・とらえ方があるということを知る経験を得させる。全体交流では、多様な意見により読みが広がっていく過程、逆に多くの意見が、ある地点に収斂されていく過程に参加することで、多人数で意見を練り合うことの重要性に気づかせたい。

④評価の工夫

授業の中で見取りと同時に言葉がけをする際や、ワークシートやノートを評価する際、次時へ向けてのヒントになるようなコメントを加えることで、問題解決への意欲と自信を与えることができる。